

「EOS VR SYSTEM」の3D撮影用レンズ“RF-S7.8mm F4 STM DUAL”を開発
「Apple Vision Pro」の「空間ビデオ」に Apple 社認定入力機器として対応

キヤノンは、「EOS VR SYSTEM」として、3D映像撮影用のRFレンズ“RF-S7.8mm F4 STM DUAL”の開発を進めており、2024年内の発売を目指しています。Apple Inc.（以下「Apple社」）の「空間ビデオ」は、空間コンピューター「Apple Vision Pro」で視聴できる3D映像です。本レンズは、Apple社製品以外で初めて※1「空間ビデオ」に対応するApple社認定の入力機器となります。



RF-S7.8mm F4 STM DUAL



「EOS R7」装着イメージ



「空間ビデオ」イメージ

キヤノンは、2021年に3D・VR映像撮影システム「EOS VR SYSTEM」を立ち上げ、エンターテインメントや観光、教育など幅広い分野におけるVR映像制作のニーズに応えてきました。近年、急速に市場が拡大しているXR市場において、手軽に3D映像撮影を楽しみたいユーザーのニーズに応えるため、APS-Cサイズカメラ対応のRFレンズ“RF-S7.8mm F4 STM DUAL”を開発しており、2024年内の発売を目指しています。

本レンズは、人間の有効視野に近い約60°※2の画角により、日常のさまざまなシーンを自然な画角で撮影することができます。AF機構を搭載することで、一般的なRFレンズと同様の操作感で高速・高精度なAFを実現し、初心者の方でも手軽に3D映像の撮影を楽しむことができます。

「Apple Vision Pro」で視聴できる「空間ビデオ」では、奥行き感のある3D映像を楽しむことができます。“RF-S7.8mm F4 STM DUAL”と本レンズに対応するカメラ※3「EOS R7」（2022年6月発売）で撮影した映像をアプリ「EOS VR Utility」※4で「空間ビデオ」の映像フォーマットに変換することにより、「Apple Vision Pro」で「空間ビデオ」の視聴が可能となります。家族や友人、ペットなどと過ごした思い出、旅の風景などを高画質な実写映像で残すことができ、貴重な思い出のシーンを「空間ビデオ」によって臨場感のある追体験をすることが可能です。

キヤノンは、今後もApple社との連携により「EOS VR SYSTEM」をより一層強化し、2D映像とは異なる表現領域を求めて3D映像制作に挑戦するユーザーの創作ニーズに応え、3D・VR映像文化の醸成に貢献していきます。

※1. 2024年6月10日現在。

※2. 35mm判換算で焦点距離35mm相当。

※3. “RF-S7.8mm F4 STM DUAL”発売時点での対応カメラは「EOS R7」（2022年6月発売）のみ。発売同時期に公開予定のファームウェアの適用が必要です。

※4. macOSに対応。一部のサービスは有償です。

* Apple Vision ProはApple Inc.の商標です。